

おびひろ上下水道事業経営改善プラン（案）の概要

1 目的と位置付け

（1）策定の目的

「おびひろ上下水道ビジョン 2020-2029」で掲げた基本理念「未来につなぐ信頼される上下水道」を実現するための目指すべき方向性である「安全」や「強靱」を確保したうえで、長期的視点に立ち、健全かつ安定的な運営を「持続」するための具体的な取り組みを推進することを目的として策定する。

（2）位置付け

上下水道ビジョンで掲げた3つの視点のうち、主に「持続」に重点を置き、長期的に健全かつ安定した経営を維持するための行動計画とする。

（3）計画期間

計画期間は上下水道ビジョンと一体的な推進を図るため、上下水道ビジョンの計画最終年度である2029（令和11）年度までとする。

2 現状と課題

（1）水需要の減少

人口の減少に伴い水需要も継続的に減少が見込まれ、水道料金・下水道使用料も人口減少に比例して年々減少するものと想定される。

（2）施設の老朽化

管路や稲田浄水場、帯広川下水終末処理場などの施設が今後、法定耐用年数を経過し更新時期を迎える。長寿命化や実使用年数に応じた計画的な更新が必要となる。

（3）組織体制の推移

団塊の世代の定年退職などにより平均年齢や経験年数が低下傾向にあり、人材育成や技術の継承が課題となっている。

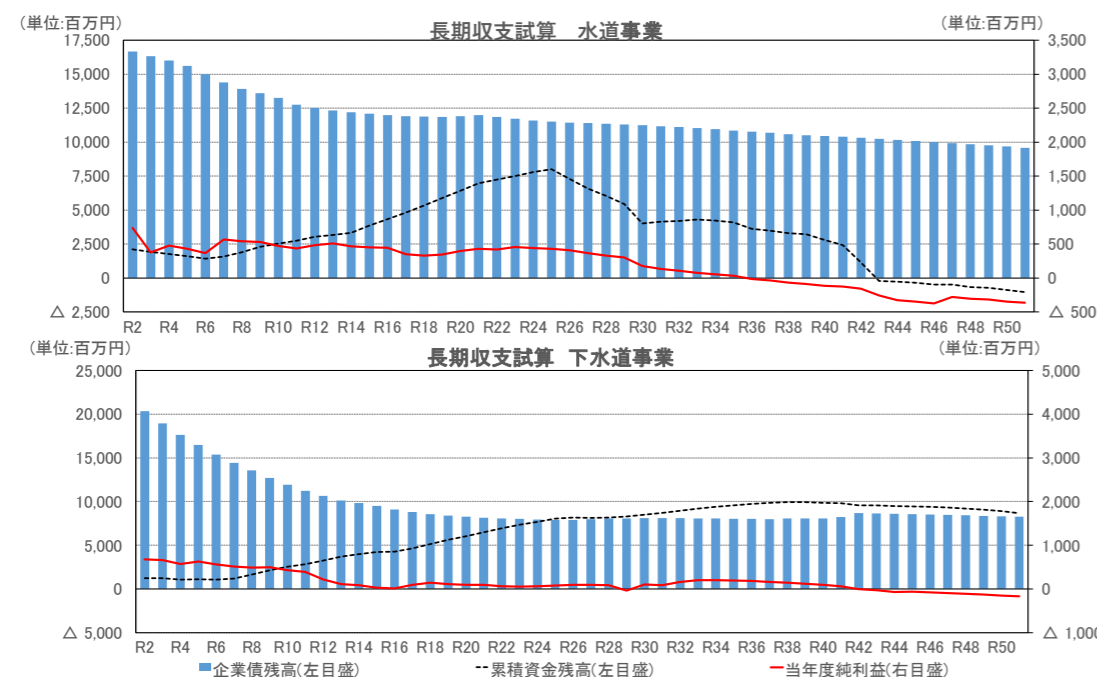
（4）ビジョンにおける収支見通し

上下水道ビジョンでは計画期間である令和11年度までの10年間の収支見通しを作成しており、当期純利益や一定の累積資金残高を確保するなど、安定的な経営を維持する見通しとなっている。

（5）長期収支試算

将来にわたり安定した経営を維持するために、経営改善に向けた方策について検討することを目的に、現行制度に基づく長期収支試算（50年）を作成した。

その結果、上下水道事業ともに将来的に累積資金残高の減少と当期純損失が発生することが予測される。



3 目標と取り組みの柱

現状と課題を踏まえると、現ビジョンの計画期間内は安定的な経営が維持できる見通しであるものの、50年の長期収支試算では、累積資金残高の減少や当期純損失等が発生するなど、健全かつ安定的な運営を持続することが困難となることが予測されることから、現段階から改善に向けた取り組みを進める必要がある。

（1）目指すべき方向性

「健全かつ安定的な運営を持続する」

（2）3つの経営目標：目指すべき方向性に向けた経営目標を設ける

① 当年度純利益の確保	将来にわたって安定的な経営を持続するため、純利益を確保する
② 累積資金残高の確保	災害などの不測の事態にも対応できるよう、一定の自己資金を確保する
③ 企業債残高の抑制	将来世代への負担が過度にならないよう企業債残高を抑制する

（3）3つの取り組みの柱：経営目標を実現するための取り組みの柱

① 将来を見据えた施設整備	人口減少等に伴う水需要の減少に応じた施設規模の見直しや長寿命化などに取り組む
② 経営の効率化	民間活力の活用や管内自治体との連携、会計間における適正な経費負担の見直しなど経営の効率化を推進する
③ 人材育成と業務の効率化	水道・下水道事業の安定的な経営を支える人材の育成や技術の継承を計画的に推進するほか、デジタル活用などによる業務の効率化を図る

4 取組項目

取り組みの柱	取組項目
① 将来を見据えた施設整備	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備の計画的な更新 水道管や下水道管の更新計画の見直し 建設改良資金の確保
② 経営の効率化	<ul style="list-style-type: none"> 料金収納業務等包括委託の導入 施設運営手法の検討 効率的な建設工事等の発注 広域連携の推進 将来に負担を先送りしない企業債の発行 会計間における経費負担の見直し 水道料金・下水道使用料体系の検証
③ 人材育成と業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成の推進 業務の効率化の推進

5 進捗管理

- 事業を推進していく過程においてPDCAサイクルによる進捗管理を行う。
- 取組項目毎の進捗状況を経営審議会に報告するほか、必要に応じて取組項目や経営改善プランの見直しを行う。